

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.32（新緑号）

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成20年 5月10日発行

第8回総会・環境講演会を開催しました

第8回総会・環境講演会を3月8日(土)午後1時30分より高山市民文化会館にて開催しました。総会では、平成19年の会務、事業、決算報告、平成20年の事業、予算が諮られそれぞれ承認されました。

昨年、『要望書』を提出した「合併記念公園位山山頂整備計画」の動向と、今年が見直しの年になっている「乗鞍マイカー規制」の当会の対応について、また今後の活動のあり方、会員増加・他団体との協力など参加者の意見が交わされました。

総会前に行なわれた環境講演会では、名古屋市の藤前干潟を守ってこられた辻惇夫氏（NPO 法人 藤前干潟を守る会理事長）を迎え、『干潟のいのちがつなぐもの』と題してこれまでの活動や現在の様子などを、映像を交えて語っていただきました。（4, 5, 6ページに要約掲載）

自然観察会の案内

県立自然公園

高山市合併記念公園 “飛騨位山” へ登ろう

公園整備が進んでいる飛騨位山に登り、位山の自然・文化を感じてみよう。
スキー場駐車場から歩きながら、分水嶺公園、登山道を利用して山頂までを往復する行程です。

日 時：5月25日（日）：雨天決行

集 合：午前8時・位山スキー場駐車場（道の駅前）

解 散：午後3時頃

持ち物：お弁当、飲み物、帽子、雨具、軽登山の服装

問い合わせ：宝田（0577-34-1287）

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 第8回 総会

- 1) 開会あいさつ
- 2) 会長あいさつ 飯田洋会長
- 3) 議長選出 飯田会長を選出
- 4) 議題

平成 19 年会務・事業報告
 平成 19 収支決算報告・監査報告
 平成 20 年事業計画
 平成 20 年予算案
 役員改選
 高山市合併記念公園について
 乗鞍岳マイカー規制の見直しについて



- 5) 閉会あいさつ 小野木副会長

- ◎ 平成 19 年会務報告 宝田事務局長が報告、審議の結果承認された。
- 1) 会員状況： 19 年末 会員数 118 (個人・家族 115、団体 3)
 - 2) 会議関係： 総会 平成 19 年 3 月 17 日 ・ 運営委員会 毎月 1 回開催

- ◎ 平成 19 年事業報告 宝田事務局長が報告、審議の結果承認された。
- 1) 第 7 回総会・講演 3 月 17 日 高山市民文化会館
『海も山も川も大病』 講師 ・ 遠藤 公男 氏
 - 2) 高山市合併記念公園関係 要望書提出 9 月 28 日
話し合い 11 月 15 日 飛騨振興局
12 月 3 日 一之宮支所
 - 3) 御嶽山麓春の自然観察会 5 月 13 日 御嶽山麓
 - 4) アサギマダラマーキング会 8 月 19 日 //
 - 5) 御嶽山麓秋の自然観察会「ドングリ拾い」 10 月 14 日 //
 - 6) 季刊の会員だより 『くらがね通信』 No. 27・28・29・30 発行送付

- ◎ 平成 20 年事業計画 宝田事務局長が提案、審議の結果承認された
- 1) 自然観察会 年二回予定
 - 2) アサギマダラマーキング 8 月 チャオ周辺、指導・鈴木俊文さん
 - 3) 環境講演会 年二回予定
 - 4) 公開講座 『自然談話室』 (不定期・数回)
 - 5) 季刊の会員だより 『くらがね通信』 発行送付
 - 6) その他、調査活動等

◎ 平成 19 年収支決算報告、20 年予算案 佐藤会計担当が報告・提案、審議の結果承認された。

平成 19 年会計決算報

(収入の部)

	金額	備考
平成 19 年繰越	689,033	
個人 99	208,000	年会費 2,000 円 複数年含
家族 14	45,000	年会費 3,000 円 複数年含
団体 4	25,000	年会費 5,000 円 複数年含
雑収入	7,610	寄付 (岡村様他)
貯金利子	988	
合計	975,631	

(支出の部)

	金額	備考
会議費	5,700	文化会館使用料
通信費	82,600	切手・葉書
事務費	8,049	用紙・封筒・テープ・ラベル
印刷費	39,333	くらがね通信 (年 4 回発行)
事業費	119,930	講師謝礼、宿泊、交通費
合計	255,612	

平成 20 年予算案

(収入の部)

	金額
繰越金	720,019
会費	280,000
合計	1,000,019

(支出の部)

	金額
会議費	10,000
通信費	100,000
事務費	10,000
印刷費	60,000
事業費	200,000
予備費	620,019
合計	1,000,019

975,631 (収入) - 255,612 (支出) = 720,019 (次年に繰越)

監査の結果 適正に処理されていると認め可。

平成 20 年 1 月 24 日

監事

向田 直



監事

米澤 智子



◎ 運営委員 (任期：20・21 年の 2 年間)

会長	飯田 洋	副会長	小野木三郎・直井清正・木下喜代男
事務局長	宝田延彦	庶務	住寿美子
運営委員	伊藤茂・大野敏雄・松崎まみ・古橋洋子・田之本克己 (新任)		
会計	佐藤八重子		
監事	向田真一・米澤智子		

環境講演会『干潟のいのちがつなぐもの』

講師 辻 淳夫 氏

NPO法人 藤前干潟を守る会理事長
伊勢・三河湾流域ネットワーク代表世話人
日本湿地ネットワーク共同代表

3月8日、第8回総会の前に、辻 淳夫氏を講師として環境講演会が開催しました。

辻氏は始めて渡り鳥を観察したときから、藤前干潟を守る為に NPO 法人として活動するに至った経緯について映像を交えて講演してくださいました。

以下、辻氏の講演内容を要約して紹介します。



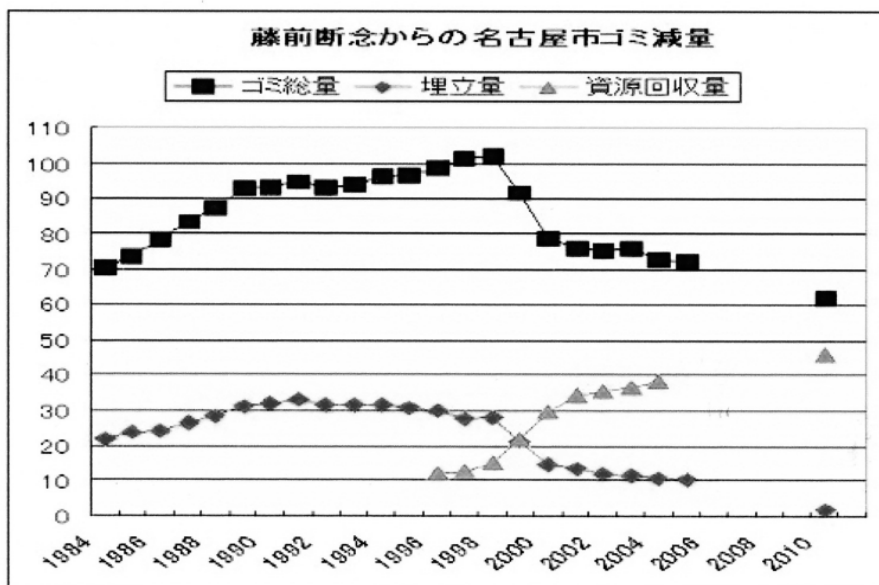
私が最初に渡り鳥を見たのは 1970 年の事でした。『鳥の渡り』という新書版を見て、地球を股に架けて飛び回っている渡り鳥のすごさに興味を持ったのがきっかけでした。日本野鳥の会名古屋支部の開催する探鳥会に参加し鍋田干拓地で始めて渡り鳥の観察をしました。それから 1 年間くらいは夢中で鳥を見続けました。

干拓地の外側には干潟がありそこへたくさんの渡り鳥が飛来していたのですが、私が高校を卒業して大同製鋼で施設設計をしていたときに、伊勢湾台風で被害が出たのをきっかけに高潮防波堤が作られ、その内側の埋め立てが始まりました。埋め立ては沖合いで掘った砂をパイプで吐き出して埋めるという方法で行われました。鳥の住処が追いやられる事になったのです。このあたりは濃尾平野の最先端に位置し、もともとは湖状態であったが、木曾三川が土砂を運んで出来た非常に浅く古くから田んぼとして利用されて来ました。田んぼのうちはまだ自然が保護されていたましたが、戦後機械の力で埋め立てられ工業地帯となり、自然環境が壊れてしまいました。8000 ヘクタールあるエリアのうち、自然の形で残ったのは僅か 5 パーセントの 400 ヘクタールだけとなってしまった。

日本の経済成長が始まった当時は、名古屋港一帯はまだ豊かな漁場で、ここで採られた魚介類は市電で名古屋の町に運ばれたものでした。しかし高潮防波堤が出来てからは、漁師もあきらめ漁業権を放棄したのです。

そして最後に残った 5 パーセントの地、つまり藤前干潟を埋め立てる計画が出たのですが、以前のように開発の為に埋め立てではなく、市民の出すゴミを埋め立てる事を知り、自分たちの出すゴミによって干潟を失うという事で、自分たちの生活を見直していこうという事になりました。ゴミの中には使えるものが沢山あったし、ゴミを見直し減らす事が鳥を救うことに繋がるということで『ゴミ鳥（取り）シンポジウム』と題してシンポジウムの開催しその時に出た提案などをまとめて市へ代替案を提示したり、署名活動を行い 10 万人の署名を集め、市議会に提出した結果、名古屋市からも計画を半分に減らすという返答を貰う事が出来ましたが、計画は進み運輸大臣がサインしたら着工するというところまで来ました。

その直前に行なったシンポジウムで、環境省が「市の提示した人工干潟計画はあまりにも無謀な計画」と言ったところから流れが変わりました。そんな時、長崎県諫早湾で行なわれた衝撃的な水



門締め切り工事「ギロチン」の映像が流れ全国的に干潟の保護が叫ばれ、それを受けて名古屋市は藤前干潟埋め立て計画を断念することになりました。(1999年)

それからは名古屋市民が2年間で2割のごみ減量計画が本当に達成できるのかという事が懸念されましたが、最初の1年で1割のゴミを減らす事が出来ました。しかしここで名古屋市はゴミ回収の

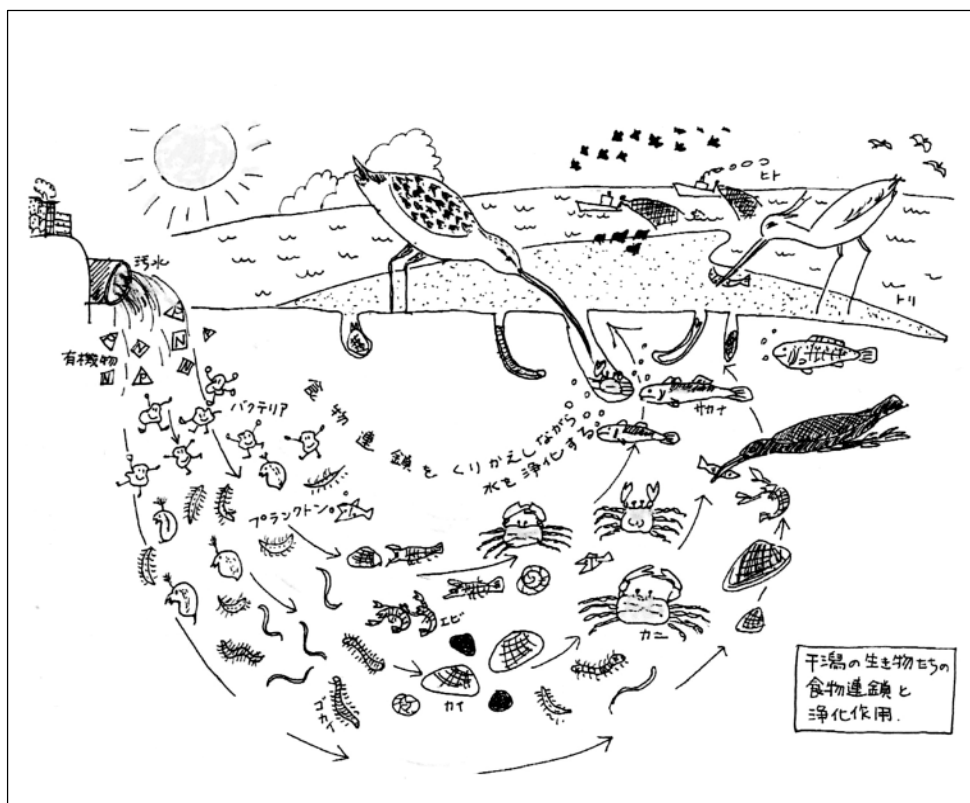
有料化を導入しようとしたところ、市民から猛反対が起こり、目標達成が危ぶまれたが、その後『容器包装リサイクル法』による分別回収を行ったところ、2割を超えて23パーセントのゴミの削減に成功しました。

現在、藤前干潟を守る会では「稲永ビジターセンター」と「藤前活動センター」2館の管理・運営を行なっています。そこでは『干潟の学校』といってガタレンジャー(干潟案内人)をリーダーとして、子供たちに干潟に住む生物や干潟の役割などを学んでもらっています。

運動経過で私たちが知ったことは、当初は鳥たちの餌場を守ろうと運動していたが、干潟は鳥だけではなく小さな生き物や、それを食べる小魚など様々な生き物が棲んでいて、太陽の光が届いている浅い海が大事だなと分かりました。

私たちは海の幸・山の幸で生かされていることを再認識すべきです。東京湾を始めとする大都市といわれる人口集中地帯は、昔から恵みの多い豊かなところだったのです。名古屋港一帯も例外ではありません。

ラムサール条約の登録とは、私たちは命のつながりとか、命の働きで生み出されるもので生きているんだ、そのことを大事にしないといけないという理念を伝えるための条約だと思います。干潟に流れを注ぐ流域・源流を含めた海全体が良い状態にな



る事が大切であると思っています。

現在、「伊勢・三河湾流域ネットワーク」では“山川里海”各地の活動をつなげあっていこうと活動をしています。“山”では、人工林が危ないとの事で「森の健康診断」を数箇所を実施しています。

[関係ホームページ](#)

○藤前干潟を守る会

<http://www.fujimae.org/>

○伊勢・三河湾流域ネットワーク

<http://www.isemikawa.net/>



(表・図・写真：NPO法人藤前干潟を守る会)

乗鞍マイカー規制

乗鞍マイカー規制は、今年が見直しの時期になっていて、7月には見直しされるかされないかの決定がなされることになっている。3年前と同様に観光業界から規制緩和の声も聞かれている中、当会としては、結成以来主張している「自然融雪による開通」など規制強化について再度訴えていかなければならないと考えています。

4月7日に乗鞍自動車利用適正化協議会が開かれ、乗鞍環境保全事業、乗鞍環境影響調査等評価委員会報告、適正化方針見直しスケジュール等について話し合われた。

○ 協議会会計

マイカー規制にかかる経費は19年度で見ると、年間約3,500万円で、そのうち岐阜県が100万円、高山市が2千万円を負担し、旅客・施設・駐車場事業者が約900万円、繰越金約450万円となっている。

この3,500万円の使いみちとして主なものは除雪費に約1,900万円、ゲート管理に約900万円、広告に約300万円となっていて、繰越金が約250万円になっている。

20年度の予算は19年度とほぼ同じ程度の内訳になっているが、繰越金が少なくなっている分だけ少なく見積もっている。

つまり年間経費はほとんど除雪にかかっていることになり、仮に来春、例年以上に積雪量が多くて除雪に手間取ることになると、さらなる税金投入ということになるかもしれない。

○ 環境保全事業（環境保全税を財源とした環境保全事業）

(1) 環境影響評価調査

①大気環境状況調査（平成14年度の規制前と比較して）

・減少・・・二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、一酸化窒素、非メタン炭化水素

特に一酸化窒素は大幅な減少

- ・ほぼ同等・・・一酸化炭素、光化学オキシダント、メタン

②植生等影響調査 (乗鞍鶴ヶ池集団施設地区内の標準地 5ヶ所)

- ・14年度と比べ、植生の種類は同等又は増加が認められる。植被率は大きな変化はない。
- ・富士見岳北西側登山道では表土の流失が止っていない。
- ・豊平お花畑には外来種のナガハグサが分布を広げる傾向にある。
- ・調査結果からはマイカー規制の影響は明確でないが、関係者等からの情報では登山道脇の植生は順調に回復しているようだ。

③水質等調査

- ・酸性雨調査・・・17年度の高山市平均値に比べて良好。
- ・鶴ヶ池、亀ヶ池・・・水素イオン濃度が弱酸性 (pH5.7)。
- ・生物化学的酸素要求量 (BOD)、浮遊物質、大腸菌群数は良好。

(2) 乗鞍環境パトロール員の設置

活動実績は、延べ 617 人で利用者への指導件数 2,387 件で、主な指導内容は

- ・歩道外での写真撮影 (746)、歩道外への立ち入り (578)・踏み出し (206)、タバコの投げ捨て (479) がほとんどを占める。
- ・18年度と比較すると特に歩道外への踏み出しが 4 分の 1 に減ったが、タバコの投げ捨ては逆に 1.8 倍に増加した。

(3) 乗鞍自然観察指導員

シーズン中毎日延べ 242 人。自然観察 3,330 件など。

○ 環境影響調査等評価委員会

環境影響等のデータの評価のあり方について有識者から意見を伺う為に設置。その役割としては調査データの分析・評価を行い、今後のマイカー規制のあり方についての提言を行なう。

平成 20 年 1 月 21 日に「環境影響調査等の評価及びマイカー規制のあり方についての提言」を提出した。下記にその要約を掲載します。

1. 環境影響等の評価

マイカー規制により自動車・人の減少で、スカイライン沿道での踏み込みが減少し、植生域が拡大している。お花畑でも踏み込みが減り植生が回復している。調査の結果によると大気環境も著しく改善されている。

従って、乗鞍の自然環境の更なる向上を図るため、マイカー規制を継続することが望ましい。

2. 乗鞍自動車利用適正化協議会に対する提言

- ① 自然環境保全の取り組みや適正化方針の周知徹底。
- ② 自転車の安全な乗り入れのあり方について検討
- ③ 除雪による道路沿いの植物が一部損傷している。除雪のあり方を検討。
- ④ 入山する全車両の低公害車化の促進を検討。

3. その他関係機関に対する提言

- ① 県境を越えた議論を進め、環境保全型観光地のモデル構築を推進。
- ② 外来種・移入種の侵入を防除するため、入山者・入山車両の入山前の段階での除去対策。
- ③ 乗鞍の魅力や自然環境保全の意識を深めてもらうためのガイド事業の定着。

○ 適正化方針見直しスケジュール

乗鞍自動車利用適正化方針の中で「マイカー規制実施方法等について3年ごとを目途に見直す。」となっていて、今年度が3年目となり見直しの協議をすることが決まっている。

来年度に向けての情報発信とパンフレット作成等に間に合わなくなるため、今の方針に変更があるとしたら今年の7月に行なう協議会までには決めなければならない。

※3年前、平成17年の時には、当会からは規制強化の「要望書」、観光業界から規制緩和の「要望書」が提出され注目されたが、協議会は、環境影響調査は2、3年で結果が出せるものではないとして「規制継続」を決定している。

区分	平成19年	前年比較 (%)
大 型	3,790	89
マイクロ	1,050	103
シャトルバス	2,563	98
バス計	7,403	94
タクシー	2,256	84
業務車	1,340	106
自転車	3,107	123
特別車輛	37	88
マイカー		
台数計	14,143	98
大 型	113,700	89
マイクロ	15,750	103
シャトルバス	53,969	98
バス計	183,419	93
タクシー	6,768	84
業務車	2,680	106
自転車	3,107	123
特別車輛	74	88
マイカー	0	
入込推計	196,048	93
終日通行止め	15 日	
部分通行止め	18 日	

岐阜県側入り込み結果

(岐阜県乗鞍自動車利用適正化協議会)

区分	H19 年	前年比較 (%)
大 型	778	97
マイクロ	398	115
シャトルバス	1,949	107
バス計	3,125	104
タクシー	1,484	78
許可車両	1,631	98
自転車	2,450	123
台数計	8,690	102

長野県側入り込み結果

(長野県乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会)

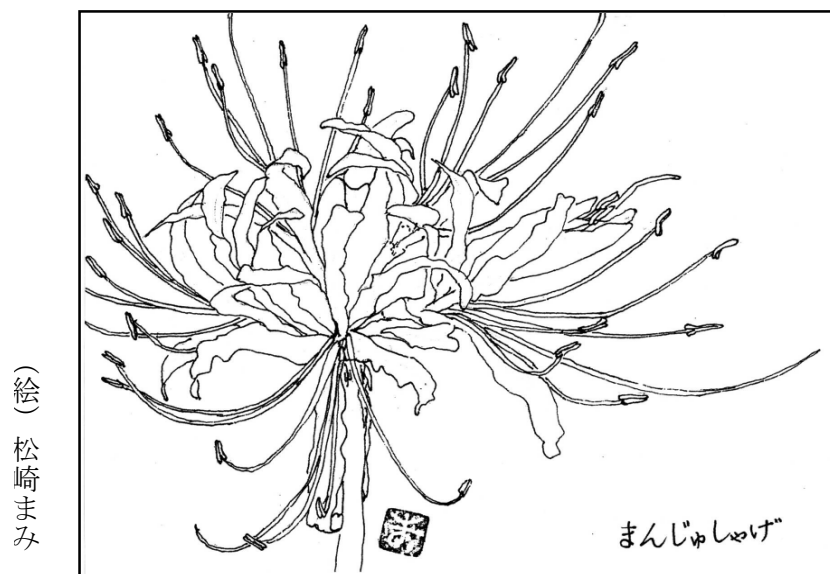
○乗車人員は大型30人、マイクロ15人、シャトルは実乗車人員。

○岐阜県側は5月～10月。長野県側は7月～10月。

○シャトルバス平均乗車人数。岐阜県21.5人。長野県26.7人。

推定入り込み人数	
H9～13 (平均)	422,528
H15 年	234,768
H16 年	189,715
H17 年	192,703
H18 年	210,867
H19 年	196,048

(昼平駐車場)



(絵)
松崎まみ

合併記念公園整備計画(位山山頂)

昨年、当会が高山市に対して『要望書』を提出し問題提起した、「合併記念公園位山山頂整備計画」について、『高山市民時報』（高山市民時報社）にも市民からの意見が掲載されるなどして関心がもたれている。また、数名の市議会議員より問い合わせがあり、3月11日の市議会定例会に於いて水口議員が質問されたが、市長・市当局共に「ご理解願いたい」に終始した。

3月26日、一之宮町審議会でも審議委員より再検討の意見が出された。

○ 市議会

3月11日、高山市議会平成20年第1回定例会一般質問で、水口武彦議員が「合併記念公園整備計画」モンデウス飛騨位山スノーパークエリアの位山山頂一帯に於ける開発について質問をされた。

水口議員は、当会伊藤茂運営委員・市民からの聞き取りを基に、山頂一帯に於ける整備計画には反対の意見や問題点もあるので再検討できないかと質問したが、基盤整備部長、市長共に「理解をお願いし進めていきたい」と計画を進めていく考えに変更はなかった。それに対し水口議員は最後に再度、再検討をお願いして答弁を終了された。



○ 市の答弁

基盤整備部長・・・議会の承認はもちろん、地域の説明会、広報の掲載により周知を図ってきた。市民の要望も多く自然環境や、景観を最優先に考えた必要最小限の計画。

高山市長・・・位山については想いのある山であり大切にしたいと言うことは理解している。これまで、計画を立てて地元と協議し意見を聞いてきて進めてきた。展望台設置については大規模な開発ではなく、以前にもあったところに同じようなものを設置する。

トイレ問題については、水を汚すことのないようにバイオトイレを設置するのであって、むしろトイレがなくて所々で、万が一排泄するようなことになればそのほうが自然環境・水を汚染することにつながる。

地元の理解を頂きながら整備を進めたい。

